

ナマコのからだ

きよくひ

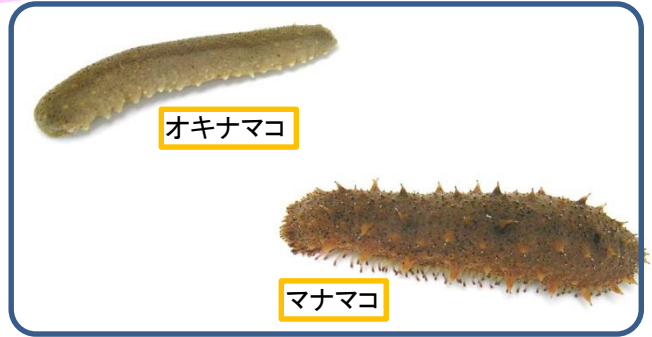
ナマコは他の棘皮動物と違って、細長くやわらかい体をもっています。

しかし、内部にはウニやヒトデと共通の構造がいくつもあります。

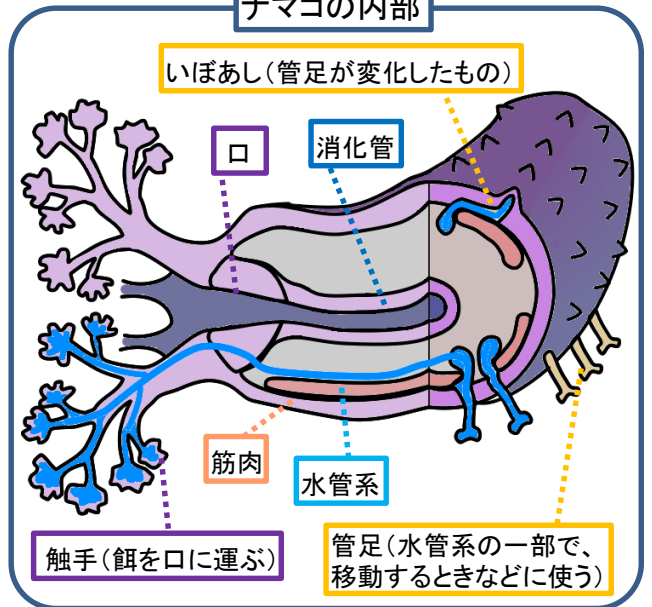
ナマコはウニやヒトデなどと同じ棘皮動物で、構造としては、ウニを横倒しにしたような状態です。他の棘皮動物と同じように、消化管と、水管や管足すいかん かんそくなどをもっています。

ナマコの口の周りの管足は、ウニ・ヒトデなどと違ってよく発達し、触手しよくしゆになっています。この触手を使って、砂や泥をのみこみ、粒の表面についている有機物ゆうきぶつなどを食べています。また、触手を水中に大きく広げて、流れてくる有機物やプランクトンをつかまえて食べているものもいます。

ウニやヒトデはかなり大きい骨片こっぺんを持っているため、比較的固い体をしています。しかし、ナマコの場合、骨片が非常に小さいため、かなり自由に体の形を変化させることができます。この体のおかげで、ナマコは石の下などのすき間に自由に入ることができます。



ナマコの内部



ナマコの触手

多くのナマコは触手を使って砂を口に運ぶ。砂の表面についている有機物などの餌を食べるためだ。



グミ

ナマコの中には、触手を水中に大きく広げて、流れてくる有機物などをひっかけて食べるものもいる。